

■ 南蔵王不忘山～熊野岳縦走山行

■ 2024年6月7日（金）～9日（日）

■ 参加者：H、K、M島、M川（記）

■ 費用：夜行バス¥11900、新幹線¥3390、タクシー¥6750、バス¥1200 新幹線¥22760

■ 行動記録

6/07 19:34 自宅 ⇒20:56～21:53 京都（夜行バス）

6/08 6:30～54 郡山 ⇒7:20～28 白石蔵王 ⇒7:56～8:00 白石スキー場登山口 ⇒8:35 白石女子高山小屋跡
⇒弘法清水 ⇒10:30～53 不忘の碑 ⇒10:57～11:10 不忘山 ⇒12:05～12 南屏風岳 ⇒12:35 分岐
⇒12:44～54 屏風岳 ⇒13:23～36 芝草平 ⇒13:58～14:06 杉ヶ峰 ⇒14:41～57 刈田峠避難小屋
⇒15:05 刈田峠登山口 ⇒15:38～45 刈田岳 ⇒15:50～16:10 レストハウス ⇒16:55 御田上避難小屋

6/09 6:22 避難小屋 ⇒7:10 御釜分岐 ⇒7:53～8:00 熊野岳避難小屋 ⇒8:13～27 熊野岳 ⇒8:40 ワサ小屋跡
⇒10:44 蔵王温泉 ⇒山形駅 ⇒京都 ⇒自宅

■ 2015年の秋に、笹谷峠から熊野岳までの蔵王北部を縦走したが、御釜周辺が火山規制で、熊野岳～刈田岳のレストハウス間が通れなかった。その後、歩き残した熊野岳～不忘山を何度か計画したが天候その他の理由で行けず、やっと6回目の今回、高山植物が見頃の時期を狙い、実行に移すことができた。コースは白石スキー場から不忘山・屏風岳を經由、刈田岳近くの避難小屋で一泊し翌日馬の背を通り熊野岳から蔵王温泉に下ることにした。頂上周辺の避難小屋は緊急避難のためなので、計画的宿泊は不可なので、調べた結果お田神避難小屋を利用することにした。現地でもタクシーを利用するためメンバーは4人とした。

金曜日、京都発福島県の郡山行き夜行バスに乗り込み、郡山から白石蔵王まで新幹線で移動、その後タクシーで白石スキー場まで入る。駐車場にはすでにたくさんの車があった。登山口からは火山の裾野らしく緩やかな登りから徐々に勾配は増していき、やがて高木もなくなり眺望が広がる。不忘山はたくさんの人で賑わっていたので早々に退散、細い稜線を南屏風岳に向かう。



白石スキー場登山口の案内看板、今回は一番左の赤コース



不忘山山頂、たくさんの人で賑わっている



振り返って見た不忘山



南屏風岳を過ぎるとなだらかな斜面が広がる。正面が蔵王

南屏風岳からは広々とした緩やかな斜面の中に南蔵王縦走コースは続き、遠くに雲がまとわりつく刈田岳を見ながら屏風岳、杉ヶ岳を経て下ると刈田峠の避難小屋がある。ここはトイレもあり結構広い。ここから少しで蔵王エコーラインの道路を横切り笹が覆いかぶさった急斜面を登る。山頂レストハウスに続く蔵王ハイラインを何度か横切りようやく刈田岳の頂上に到着するとたくさんの観光客、そして目の前には蔵王の代名詞、エメラルドグリーンに輝く火口湖のお釜が見下ろせる。レストハウスでしばらく休憩して湿原ののなかに建つお田神避難小屋を目指す。2階建ての小さな小屋でトイレはない。



屏風岳から杉ヶ峰にむかう鞍部の芝草平



刈田峠、枯れ木の木々の間に刈田峠避難小屋がある



刈田岳山頂からの熊野岳と御釜



御田の神の湿原に建つ避難小屋



熊野岳山頂にて

翌朝、途中の刈田駐車場のトイレに立ち寄ったのち、御釜を見下ろしながら馬の背を経て蔵王山最高峰の熊野岳に到着、広々とした山頂で四周の眺望を楽しんだのち古道の祓川コースを通過して蔵王温泉に向かう。よく歩かれているようで迷うようなところも危険なところもなく約 2 時間で蔵王温泉の一角に飛び出した。後は温泉に入浴してさっぱりし昼食を済ませてバスで山形駅に到着、帰路は新幹線・飛行機・夜行バスとそれぞれなのでここで解散し各自帰路についた。



エメラルドグリーンの御釜



熊野岳山頂の避難小屋と祠



祓川コースからの熊野岳



蔵王温泉に近い新緑のブナ林